

8 参 考 資 料

(1) 「平成28年度電話対応コンクール」の様子



7月6日(水)に公益財団法人日本電信電話ユーザ協会主催の大会「平成28年度電話対応コンクール(テープ審査)」に2年生1名が出場した。各企業や事業所などの一般社会人の参加が多いなか、北海道の高校生として初めて参加した。日頃学んだビジネスマナーや電話対応スキルを十分に発揮することができた。

(2) 「ホスピタリティ原論(講演)」の様子



9月14日(水)北海商科大学教授 加藤由紀子氏を講師に、講演会を実施した。講演を通してホスピタリティの基本的性格について理解を深めることができた。

(3) 「観光関連産業における体験学習」の様子



9月15日(木)札幌観光ブライダル・製菓専門学校において、講師及び在校生の指導のもと、講話及び実習の一部を体験した。あわせて、百貨店人事担当者による講演も実施した。

(4) 「あつべつ食の文化祭2016」翻訳したチラシの様子



10月27日(木)~28日(金)の日程で行われた、札幌市厚別区の「あつべつ食の文化祭2016」のチラシの翻訳(英語・中国語・韓国語)を担当した。会場及び周辺ホテルにおいて配布された。

(5) 「第18回北海道韓国語弁論大会」の様子

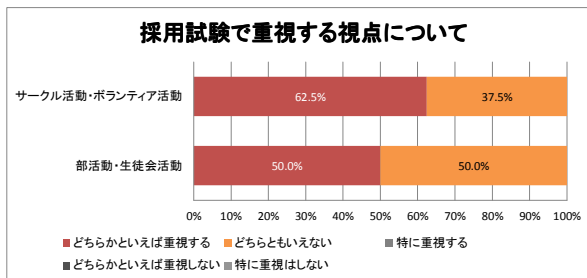


11月26日(土)に開催され、「秋夕には欠かせないソンプジョン」というテーマで発表した。発表内容について事前の調査・研究活動が充実しているという点が評価され銅賞を受賞した。

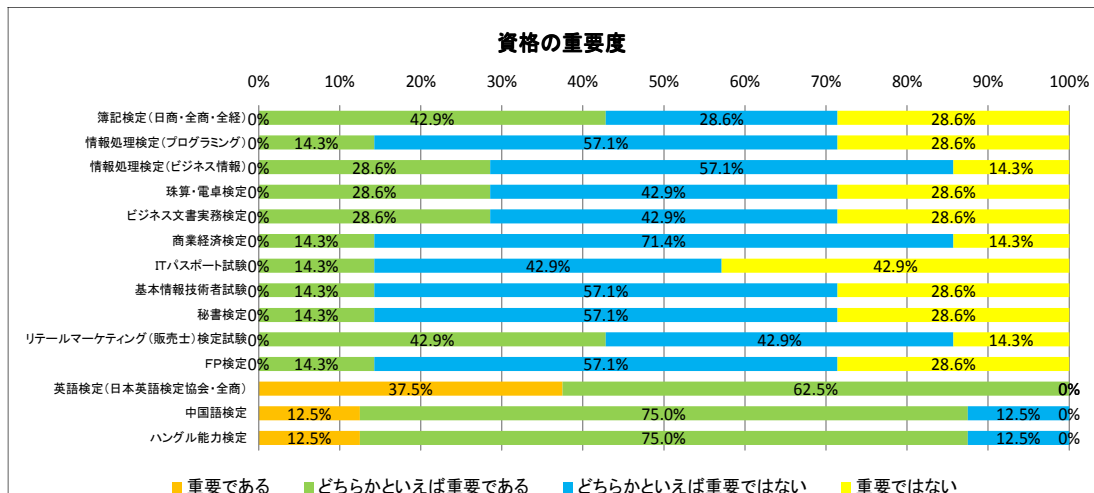
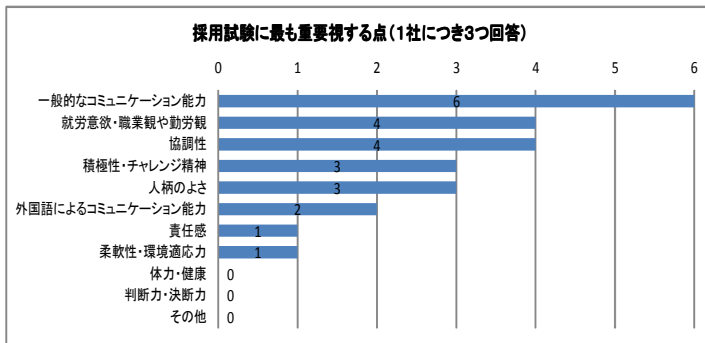
(6) インターンシップ事業所アンケート結果について
国際経済科生徒に限定した受入事業所にアンケート調査を実施（8社から回答）

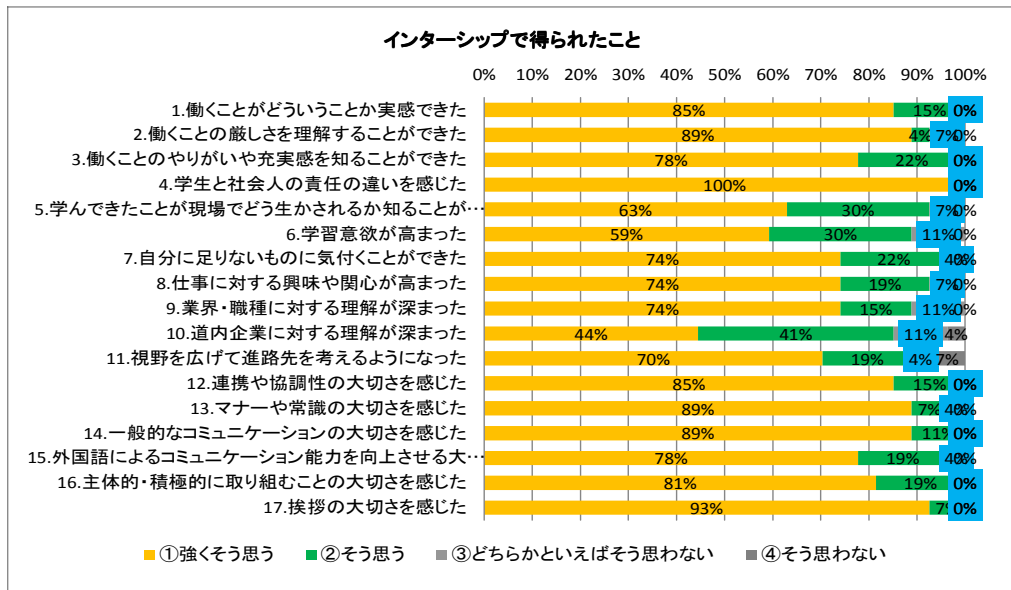
	必要	どちらかといえば必要	どちらかといえば必要ではない	必要ではない
パソコン操作力(表計算・文書作成)	4	4	0	0
簿記会計に関する力(財務諸表の見方)	0	3	4	0
接客接遇能力(挨拶・マナー)	6	2	0	0
コミュニケーション能力(聞く力・伝える力)	7	1	0	0
ビジネスに必要な法規に関する力(民法, 商法, 会社法など)	1	1	4	1
ビジネスに必要な経済に関する力	1	1	4	1
マーケティング活動に関する力	1	2	4	0
広告や販売促進に関する力	1	2	4	0
課題設定・解決能力	3	3	1	0
企画・提案能力	3	3	1	0
文章力	3	4	0	0
(総合・国内)旅行管理者資格	1	0	5	1

- 高校生が身に付けることが必要な力については、コミュニケーション能力、接客接遇能力、パソコン操作力等、基礎的・基本的な力を重視している事業所が多い。
- ビジネスの専門的な能力の中には「どちらかといえば必要ない」又は「必要ではない」との回答も一定数あることから、高校段階では、基礎的・基本的な能力が必要であることが読み取れる。



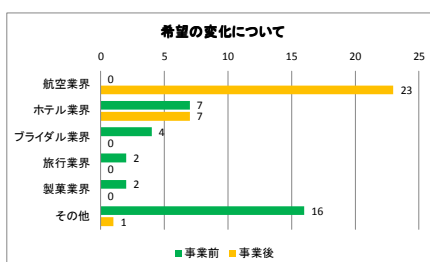
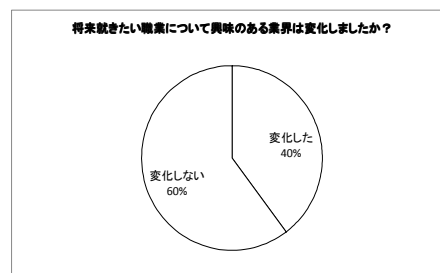
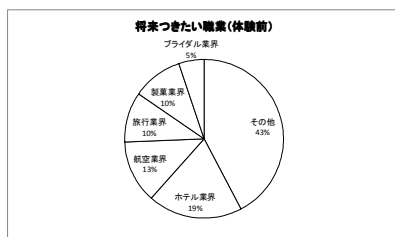
- 採用試験で重視する点については、サークル、ボランティア活動及び部活動・生徒会活動を重視していることが分かった。
- 採用試験で最も重要視する点については、一般的なコミュニケーション能力、就労意欲・職業観や勤労観、協調性となっている。
- 資格の重要度においては、英語、中国語、ハングルの外国語に関する資格が他の資格よりも重要視していることが分かった。本校の科目の履修を通して、資格取得に挑戦できるように、学習内容の見直し等、資格取得に向けたさらなる環境整備を行う。



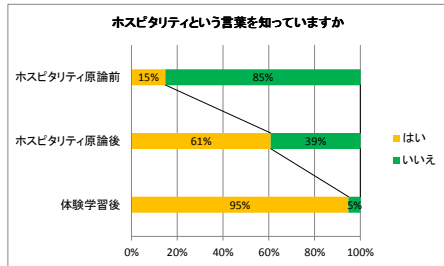


○ 国際経済科の生徒に限定した 事業所で実習を行った生徒によるアンケートにおいて、「インターンシップで得られたこと」の1～17の各項目において、(①強く思う+②そう思う)の割合が88%以上を占めている。一方で(③どちらかといえばそう思わない+④そう思わない)の割合が12%以上占めている項目があるため、次年度のインターンシップに向けて、動機付けを含めた事前指導の徹底を図る。

また、「道内企業に対する理解」については約15% (③+④) となっている。事前の企業研究・企業調査等が十分ではない、又は限られた時間の中で企業の実態を理解することの難しさを表した結果となっており、事前学習の充実を図る必要がある。

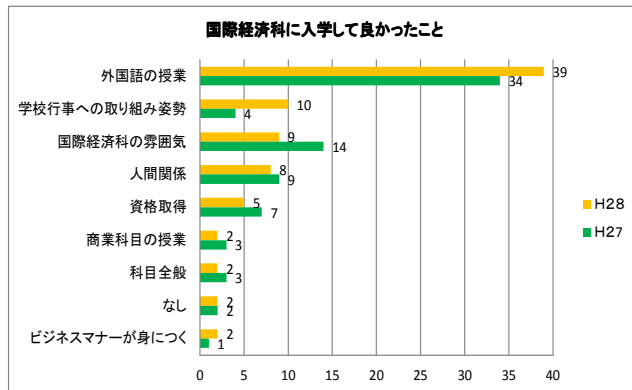


○ 観光関連産業における体験学習を行った2年生(78名)を対象に行ったアンケートにおいて、40%の生徒が、体験実施前と実施後では将来の職業選択について興味のある業界が変化したと回答しており、航空業界を希望したいと回答した者が23名増となっている。体験を通して航空業界に対する具体的なイメージを持てるようになり、前向きに検討したいとする生徒が増えたと考えられる。



○ 「ホスピタリティ原論」の講演後、ホスピタリティという言葉を知っているという生徒が増加した。講演による学習を通して理解が増したものと考えられる。

(7) 国際経済科生徒の実態調査について



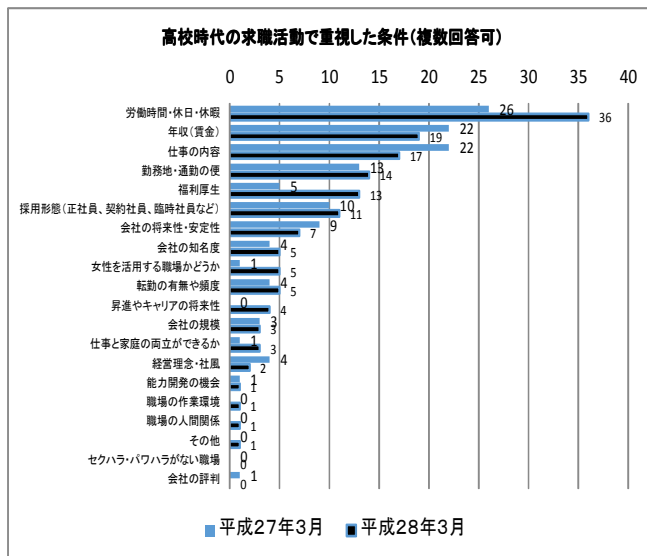
平成28年 12月～3月に、国際経済科各学年の生徒を対象に実態調査を行った。

- 国際経済科を志望した理由については、「外国語を学べる」との回答が最も多い。英語、中国語、韓国語も学ぶことのできる国際経済科の特徴を理解して入学したことがうかがえる。
- 国際経済科に入学して良かったことに関しては「外国語の授業」の満足度が高い。

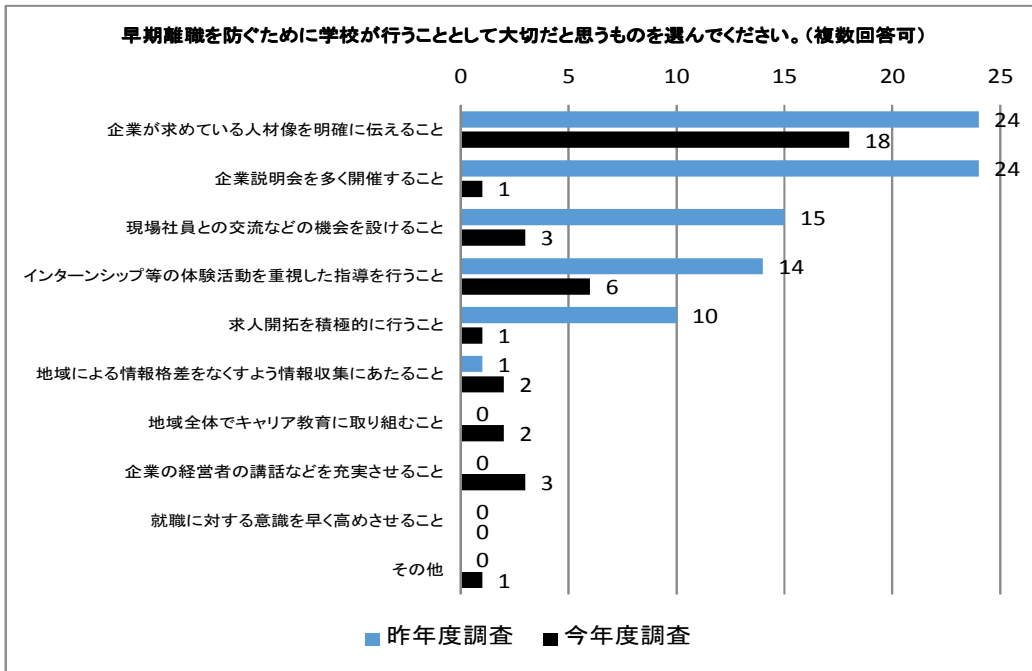
(8) 職業能力に関する調査

卒業年	男		女		計		回収率	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
平成27年3月	2	3	39	39	41	42	34.7%	37.2%
平成28年3月	6	-	48	-	54	-	43.2%	-

平成28年度卒業生からの回収率は、前年度卒業生よりも上昇した。回答がなかった卒業生に対し、電話連絡により協力を呼びかけ回収率の上昇につなげることができた。



- 「高校時代の求職活動で重視した条件(複数回答可)」について、平成27年度卒業生の回答と平成28年度卒業生の回答を比較したところ、ともに上位3つは、「労働時間・休日・休暇」、「年収(賃金)」、「仕事の内容」であった。
- また、「福利厚生」を重視した生徒は平成27年度卒業生は5名だったが、平成28年度卒業生は13名であった。加えて28年度卒業生には、「女性を活用する職場かどうか」「昇進やキャリアの将来性」と回答する生徒もいた。



○ 「早期離職を防ぐために学校が行うこととして大切だと思うものを選んでください」について、平成27年度卒業生が卒業時と1年経過後にどのように変容しているかを比較した。変容が大きかった項目は、「企業説明会を多く開催すること」についてであり、回答が大きく減少した。また、その他の回答にも変化が見られたため、社会人1年目と2年目では職業生活の受け止め方や考え方に変化が生じていることを印象付ける結果となっている。

(9) 北海道通信 (平成28年12月26日)

平成28年12月26日 【月曜日】

北海道通信

北海道商科大学と、札幌東商業高等学校との間で、国際的学習連携協定が締結された。協定は、両校が互いの教育資源を共有し、学生間の交流を促進することを目的としている。また、両校は、観光産業担う人材の育成に協力する。この協定は、両校の教育連携をさらに強化し、学生の国際的な視野を拓くことに貢献する。協定締結式は、26日、北海道商科大学で挙行了。出席者は、北海道商科大学の田中校長と、札幌東商業高等学校の佐藤校長、両校の教職員、関係者など約50名が参加した。田中校長は、佐藤校長と握手を交わしながら、「両校の連携は、学生の国際的な視野を拓くことに貢献する。また、両校は、観光産業担う人材の育成に協力する。この協定は、両校の教育連携をさらに強化し、学生の国際的な視野を拓くことに貢献する。」と述べた。佐藤校長は、「両校の連携は、学生の国際的な視野を拓くことに貢献する。また、両校は、観光産業担う人材の育成に協力する。この協定は、両校の教育連携をさらに強化し、学生の国際的な視野を拓くことに貢献する。」と述べた。

北海道商科大学(森本主夫 高校Principal)と、札幌東商業高等学校(佐藤校長)は、26日、北海道商科大学で、両校間の国際的学習連携協定を締結した。協定は、両校が互いの教育資源を共有し、学生間の交流を促進することを目的としている。また、両校は、観光産業担う人材の育成に協力する。この協定は、両校の教育連携をさらに強化し、学生の国際的な視野を拓くことに貢献する。協定締結式は、26日、北海道商科大学で挙行了。出席者は、北海道商科大学の田中校長と、札幌東商業高等学校の佐藤校長、両校の教職員、関係者など約50名が参加した。田中校長は、佐藤校長と握手を交わしながら、「両校の連携は、学生の国際的な視野を拓くことに貢献する。また、両校は、観光産業担う人材の育成に協力する。この協定は、両校の教育連携をさらに強化し、学生の国際的な視野を拓くことに貢献する。」と述べた。佐藤校長は、「両校の連携は、学生の国際的な視野を拓くことに貢献する。また、両校は、観光産業担う人材の育成に協力する。この協定は、両校の教育連携をさらに強化し、学生の国際的な視野を拓くことに貢献する。」と述べた。